

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190104592		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホームほんじょうの憩		
所在地	岐阜市本荘1941-23		
自己評価作成日	令和7年12月14日	評価結果市町村受理日	令和8年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190104592-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流のもとで入浴、排泄、食事等日常生活上の世話及び機能訓練を行なうことにより、その有する能力に応じ自立した生活を営むことができるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の事業所で、「人に優しく、笑顔を忘れず、さらなる生産性向上」を理念として、家族と連携しながら利用者に寄り添っている。利用者の心身の状態に合わせて、できる限り自立した生活を営めるよう、職員一丸となって支援している。食事は、栄養バランスの良い温かい料理が、職員の手作りで提供されている。居室・居間・廊下・トイレ等は、どこもゆとりある環境となっており、浴室には機械浴が設置され、利用者が安心して入浴することが出来る。職員は全員インカムを装着し、常に情報共有しながら、効率の良いケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を周知し職員への意識付けを図っている。新人オリエンテーションを入職時に行ない理念の徹底を図り、日々のケアに生かすことができている。	職員は、理念である「人に優しく、笑顔を忘れず、さらなる生産性向上」を常に意識し、ミーティングや申し送り、研修時に確認しながら、日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入をしております行事情報を得ている。今年度は数名敬老会へ参加する事ができた。近隣の幼稚園児の訪問を受け交流することができた。散歩の際はご近所の方と交流することができた。	自治会に加入し、地域の行事情報を得ている。敬老会には、利用者の体調を考慮しながら積極的に参加している。散歩時には、地域住民と挨拶を交わし、地元の幼稚園児の訪問もあり、利用者と交流する事ができている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への地域包括支援センター、民生委員、自治会長、岐阜市介護保険課、ご家族に参加していただき、施設の状況等の報告をしている。今後の行事予定や事故防止についても話をし理解を得られている。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、行政、地域包括支援センター、家族等の参加を得て開催している。近況報告と今後の行事予定を説明し、ヒヤリハットや事故報告等については、状況や結果、改善の為の対策等で意見交換している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岐阜市介護保険課担当者にご参加いただいている。介護保険制度については市からのメールを確認しており、各研修情報も確認し職員への参加を促している。	市役所の生活福祉課や民生委員の定期的な施設来訪時に連携を取りながら、行政担当者へ相談、指導を受けている。常に協力関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修や検討委員会を開催し身体拘束のないケアの実践をしている。フロアの入出り口や玄関の施錠、居室窓には補助錠が設置してあるが、利用者の外出の機会を設け気分転換を図ることで満足に繋がるケアを行なっている。	3ヶ月毎に身体拘束等の適正化の為に委員会を開催している。身体拘束の実践例、ヒヤリハット等の事例をもとに、職員には定期的に研修を実施し、拘束をしないケアを周知徹底している。現在、拘束が必要な利用者はいない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修、委員会の開催を定期的に行ない学ぶことで虐待防止に努めている。毎月コンプライアンス委員会を開催し虐待防止、働きやすい職場を目指している。	虐待防止委員会を定期的に開催している。職員は入社時に、虐待防止に努めることを確認している。管理者やリーダーが研修講師となり、不適切ケアのないよう職員全体で取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームほんじょうの憩

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解はできておらず、まず、管理者が学び、その後職員への研修を行ないたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明し、その場で不安点や不明点等の説明をし解決できている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に行ない意見の収集に努めている。不参加の方へは議事録や資料を送付し報告している。来訪時に意見を伺い運営に反映できるよう努めている。	利用者が季節の行事やレクリエーション、地域住民と交流している様子等を、写真付きの便りで家族へ送付している。常に、家族と情報を共有するよう努めているが、家族アンケート結果から、それが伝わっていない事があると思われる。	行事やイベント、レクリエーション時の利用者の写真を多く載せた便りを運営推進会議の場でも紹介している。写真は、家族も喜ばれると思うが、行事日や撮影日、分かりやすく文章を加え、家族が記録として残せる工夫にも期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の生産性向上を職員全員で考え実行している。職員との個別面談、相談しやすい体制を目指している。	管理者は職員の表情や行動に留意し、意見や要望を聞いている。リーダーと職員は、互いの意見を伝え合いながら業務改善に努め、モチベーションを高めている。経験豊かな職員が就任している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個別で休憩できる環境の確保をしている。有給休暇取得、希望に合わせてのシフト調整などを行ない働きやすい環境を整えている。	管理者は、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい就業条件整備に努めている。事業所は新しく、職員休憩室も完備されている。毎月、コンプライアンス委員会を開催し、働きやすい職場を目指している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会を設置しておりその中での研修や処遇改善勉強会を行なっている。資格取得のための研修等を本社にて行なっている。	法人主催の年間研修計画に沿って、勤務シフトを考慮しながら、研修を実施している。受講した職員の研修資料を他の職員が回覧し、内容を共有している。資格取得を奨励し、外国籍の職員への支援にも取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームほんじょうの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の近隣施設の職員の訪問、応援勤務がある。外部の事業所との交流はできていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉や会話のみではなく、その方の表情や態度からも本人の気持ちを察知できるように考え行動できるように指導している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活や会話の中から本人のやりたいことや要望をくみ取ることができるように努めている。D3D4シートを活用し利用者様の生活パターンを把握。過去の暮らしについても理解に努めている。	センター方式のシートを活用し、利用者ができそうなこと、やりたいことを引き出し、意向を汲み取るよう努めている。意思表示が困難な利用者は、家族からも情報を聞き、常に本人本位の支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当職員がモニタリングを行なっている。全職員が協力し情報収集を行ない適切な支援に結びつけることができるように努めている。	個別ケア記録をもとに、居室担当職員、家族や看護師が把握した情報を加え、リーダーが中心となって介護計画を作成している。介護支援専門員は、居室担当者や職員から、情報を収集しながらモニタリングを行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録はiPadに入力し全員で共有している。健康管理はバイタルチェックシステムを使用し管理している。画面を見ることで時間をかけることなく全員の情報を見ることができている。	職員は、利用者に接しての日々の気付きをタブレット入力し、引継ぎの職員はそれを確認してから勤務に就く。留意事項や懸案事項はその都度インカムを用いて確認し、情報の共有に努めている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診等、家族の都合がつかないなどご要望があれば職員の付き添いで行なっている	利用者と家族の状況、それぞれのニーズに合わせて、通院支援等、柔軟に対応している。緊急時以外の通院付き添いや送迎は、職員が付き添っている。(有料)	

岐阜県 グループホームほんじょうの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。散歩に行った際のコミュニケーションを心がけ地域との交流ができればと考えている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医療機関の往診がある。24時間の医療連携体制をとっており、隣接の有料老人ホームの看護師とも連携している。	月2回、協力医の往診がある。また、隣接する同法人の有料老人ホーム常駐の看護師による健康管理がある。毎回、短時間で効率よい診断・看護が実施でき、利用者が安心して適切な医療を受けれるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急搬送時の緊急ファイルの設置している。入院時のサマリーの作成、退院時のカンファレンスへの参加をしている。病院からの入居は細やかな情報提供を依頼している。	入退院時は、「緊急ファイル」を活用し、緊急時連絡経路を作り、迅速な対応に努めている。退院時は、利用者の状態を把握しながら、不安なくスムーズに退院後の生活に戻れるよう、理学療法士によるリハビリ体制も整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期、看取りの支援がおこなえることを説明し理解を得ている。職員への看取りの研修をおこなっている。	看取り介護に関する指針を整備し、契約時に本人・家族に説明をし、同意を得ている。事業所は開設2年目であり、重度化や終末期の利用者はないが、ターミナル研修で看取りについて学んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応ファイルを各ユニットに設置しており、連絡方法等を記載してあることを職員と共有している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火訓練、通報訓練をおこなっている。水害については年1回の机上訓練を予定している。隣接の有料老人ホームとの連携を考えている。	BCPを整備し、消防署の協力を得て年2回防災訓練を実施している。備蓄品は随時チェックを行い、担当者が管理している。事業所は、長良川に近く、年1回、水害についての机上訓練を予定している。	事業所の訓練だけでなく、自治会を通じて地域の防災訓練に参加したり、隣接の有料老人ホームとの合同訓練開催等の実現に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に法人がおこなう研修の中で接遇研修を受講している。コンプライアンスを意識した教育をおこなっている。施設内で勉強会を行ない人格や生活歴を尊重し接することを学んでいる。	法人開催の接遇研修を受講し、利用者への言葉かけや対応等を学びながら、適切な支援について意識化を図っている。入浴や排泄支援時の同性介助、プライバシー保護、利用者の安全のためのセキュリティー管理等に取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思や思いを尊重し、自分でできること、やりたいことを尊重し現在の状況の維持、向上に配慮している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気分や行動に合わせて対応できるよう指導している。本人様のペースを乱すことがないような支援を心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は湯煎の物を使用しているが、昼食・夕食は職員の手作りで提供している。家事のできる、やりたいと思っている利用者様には手伝いをしていただいている。季節感のあるメニューになっている。	昼食・夕食は、季節感を取り入れながら、利用者の好みや栄養バランスを考慮し、職員が手作りしている。利用者はテーブル拭きや食器揃え等、準備や後片付け等、出来る事を職員と一緒にこなしている。季節毎の行事食の提供で、食べる楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな飲み物、好みの温度の飲み物の提供に努めている。食事量に応じて栄養補助食品を検討している。好みの食品を家族に差し入れてもらうよう依頼している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、物品の準備の支援を行ない、必要であれば磨き直しの支援、歯科衛生士からの助言を受け実施している。口腔ケア用品の消毒や保管を行なっている。	毎食後の口腔ケアを行っている。自分で出来る利用者は見守り、介助が必要な利用者には職員がサポートしている。月2回、歯科往診があり、希望者が受診している。夜間の義歯管理は職員が行い、清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホームほんじょうの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを観察しトイレでの排泄の継続、清潔の保持に努めている。夜間のおむつの交換回数を検討しぐっすり休める環境を提案している。排尿量に合わせてパット等の検討をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせて入浴ができるように努めている。同性の介助者を望まれる場合はできる限り対応できるよう配慮。拒否の場合は、介護者、時間を変えて対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて日中の休息時間を設けている。起床時間・就寝時間も本人の希望に添えるよう配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報に目を通し、効能・副作用等も確認するように指導している。服薬時は最後まで見届けるよう指導し、落薬がないように指導している。服薬システムを使用し確実に服用してもらっている。体調に変化がある場合は往診医に連絡することになっている。	服薬支援時の誤薬防止として、薬の分包袋のQRコードをスマホで読み取り、氏名、日付などを確認している。職員は、常にダブルチェックにて確認する事とし、利用者が薬を飲み終えるまで見守っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活内の家事を希望される方には職員と一緒にこなしてもらっている。本人の好まれることを探り提案している。	利用者は、洗濯物干し、食事の準備、食後の跡片付けなど、出来る事を自身の役割りとして、積極的に行っている。職員は、利用者が趣味の編み物をしたり、利用者それぞれが、やりたいことを継続できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩を行なっている。家族との面会、外出も推奨しており楽しまれている。移動販売車が週1回来ており、買い物を楽しまれている。10月にバス旅行があり家族様とともに参加された方がおられた。	天候や利用者の健康状態に配慮しながら、周辺を散歩している。地域行事の敬老会への参加は、可能な限り、職員と共に参加している。法人の外出行事であるバス旅行に、家族と一緒に参加する利用者もある。	家族によっては、日常的な散歩や外出支援等について、伝わっていない事があると思われる。季節に応じて、事業所独自の外出支援を企画するなど、利用者全員が参加できる工夫に期待したい。

岐阜県 グループホームほんじょうの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の管理、使用する機会はないが買い物の機会はある、施設が立て替えている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族様へ電話をし取り次いでいるが要望は少ない。本人様が携帯電話を持っておられる方もいる。年賀状へのコメントをお願いしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品の作成、掲示をしている。照明や室温など、希望に合わせて対応している。利用者様の導線を考え、テーブルの配置や各個人のテーブル席を決めている。	玄関には、行事を楽しむ利用者の写真が貼られている。居間・廊下・トイレ等も広く、整理整頓されたフロアは、換気や温湿度調整も適切に行われており、清潔な環境となっている。調理中の厨房からは、食欲をそそる匂いが広がり、家庭的な雰囲気が感じられる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで並んでお話をされたりしている。食事席も個人の希望も踏まえ変更している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の整理整頓、導線の確保を職員と一緒にこなしている。本人の希望のレイアウトに沿って配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止を検討し配置に気をつけている。整理整頓を一緒に行ない使いやすい捜し物が見つけやすいような配置に留意している。わかりやすいカレンダーの配置。居室名前プレートの作成。		